

九十九島エコツーリズムの展開における自然観光資源とガイド従事者の関係

The Relationships between Natural Tourism Resource and Guide Workers in the History of Kujuku-shima Island Ecotourism

武 正憲* 斎藤 馨*

Masanori TAKE Kaoru SAITO

Abstract: The characteristic of the Japanese Ecotourism is that the guide workers make the immediate natural environment (INE) more attractive, as natural tourism resources (NTR) of INE are used for ecotourism resources often. There were many cases that guide workers participate in NTR conservation activities. However, the NTR in national park's INE requires adaptive management based on evaluation by each region, which needs the consideration on the history of NTR development for management. This study aimed to clarify the relationships between the NTR in national park's INE and the guide workers. The study was conducted at the Kujuku-shima Islands area in Sasebo City, Nagasaki Prefecture. The methods were the literature survey (administration documents, scientific journals, and newspaper articles) and the hearing survey from 13 stakeholders (administrative officers, researchers, and guide workers). At first, the development history of NTR was categorized into 4 different stages: 1) national park designated period (NPDP), 2) tourism facility development period (TFDP), 3) NTR information development period (NIDP), 4) ecotourism rule deliberation period (ERDP). Second, the relationships between the NTR and the guide workers were revealed by understanding characteristics of NTR investigation which were researched by the guide workers. As a result, the historical research revealed that the NTR is developed with the investigations by experts in the NPDP and the investigations by citizen related to guide works in the NIDP. It was clarified that the guide workers could assist to develop and to conserve the NTR in national park's INE.

Keywords: ecotourism, immediate natural environment, natural tourism resource, guide workers

キーワード: エコツーリズム, 身近な自然, 自然観光資源, ガイド従事者

1. 背景と目的

我が国のエコツーリズム（以下、ETと記す。）は開発途上国や諸外国の自然保護区で行われる観光活動と異なり、身近な自然環境を観光資源化し持続的に活用するという観点に立ち、「日本型」と称される独自の発展をしている¹⁾。日本型ETは、自然観光資源（以下、資源と記す。）に学術的な貴重性や世界的な代表性がなくとも、観光者が一見しただけでは理解が難しい自然環境の特徴やそこに育まれる歴史・文化をガイド従事者の案内と解説により理解を深め、資源化することに特徴がある。身近な自然環境の資源は、原生的な自然環境の資源に比べ、素人が価値を理解することは困難であるため、ガイド従事者の案内や解説はますます重要になる。また、ガイド従事者には、資源保護に対する役割も期待され¹⁾²⁾、特に学術的な価値が定まった原生的な自然環境での資源保護では、ガイド従事者が積極的に保全活動を実践する事例が報告されている³⁾。

しかし、身近な自然環境の資源を保護する場合、学術的に価値が定まった資源は限られるため、地域毎の価値基準に基づく資源には順応的な対応が求められると考えられる。そのため、ガイド従事者が資源保護に参加する際には、地域の資源が発掘され整備された歴史を考慮することが必要であると考えられる。しかし、身近な自然環境における資源保護とガイド従事者の関係を明らかにする研究はみられない。

そこで本研究では、身近な自然環境を特徴とする国立公園でエコツーリズムを推進する地域において、資源開発の経緯を時代区分により整理した上で、資源調査に着目し、資源とガイド従事者の関係を明らかにすることを目的とした。

本研究の資源とは、地形・地質・動植物および自然環境に関わるもので、ガイド従事者が案内や解説の対象とする資源である。ガイド従事者とは、プロフェッショナルやアマチュア（ボランティア）の別はなく、観光者や地域住民に対して、資源を案内する機会を持つ人材とする。

2. 研究対象と方法

(1) 研究対象地概要

研究対象地は、長崎県佐世保市九十九島地域とした。当該地域は、1955年に五島地域と平戸地域と共に、外海多島海景観の西海国立公園に指定され、微小多島海景観が特徴である⁴⁾。西海国立公園は、自然林の割合は低く、自然林に近いが人の手が加わった二次林を主とする植生自然度分布であり（図-1）、国立公園中3番目に原生的な自然環境の少ない、身近な自然環境を特徴とする国立公園である⁵⁾。佐世保市（以下、市とは佐世保市を指す。）は環境省ET推進事業のモデル地区であり、ET推進事業終了後も積極的にETに取り組む自治体である。

(2) 研究方法

本研究は文献調査およびヒアリング調査により実施した。

文献調査の資料は、市の観光行政に関わる事業報告書および国立情報学研究所論文情報ナビゲータ(CiNii)の検索による「西海

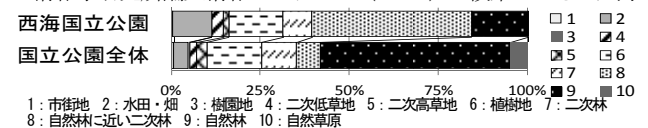


図-1, 西海国立公園の植生自然度

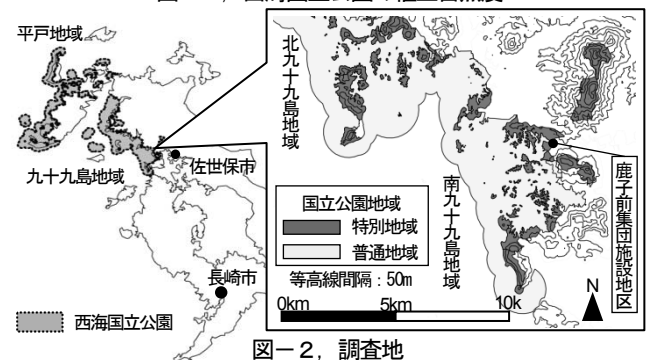


図-2, 調査地

*東京大学大学院新領域創成科学研究科

国立公園「九十九島」のいずれかのキーワードを含む学術論文を対象とした。年表は、佐世保のあゆみ⁶⁾、西海国立公園 50 周年基本構想⁷⁾、市文化基本計画⁸⁾の各年表を参照し作成した。

ヒアリング調査については、60～90 分程度の対面式面接法により 2011 年 3 月 7～11 日に環境省佐世保自然保護官 1 名、市企業立地・観光振興局 2 名、市環境保全課 2 名、市農林商工部農林整備課 1 名、させぼパール・シー株式会社エコツアー室室長 1 名、九十九島ビジターセンター（九十九島調査室）1 名、ふるさと自然の会副会長 1 名、九十九島の会会長 1 名、シーカヤック事業者 F および U の各代表 1 名、ダイビング事業者 W の代表 1 名の計 13 名に実施し、電話による補足調査も実施した。また、ヒアリング調査を裏付ける資料として新聞記事^{注1)}を利用した。

そして、九十九島の観光資源に係る歴史的出来事を、観光施設の整備に関する「観光施設」、観光情報の整備や発掘に関する「観光情報」、法令やガイドラインに関わる「ルール」、ガイド従事者が関わる「ガイド」に分類し、その分類結果から時代を区分した。

最後に、資源調査の調査主体を明らかにし、調査主体がガイド従事者と関係する資源調査の特徴を把握することで、資源とガイド従事者との関係を明らかにした。

3. 結果

(1) 時代区分

表-1 は、九十九島地域の観光資源に係る出来事を 4 つに区分した年表である。時代区分は以下のようである。

I 期：国立公園指定期（1945 年～1955 年）

佐世保は明治期から第二次世界大戦まで軍港として栄え、九十九島は長く軍用地として保護されたため、名勝地とは思っても実地に立ち入った人はほとんどいなかった⁹⁾。終戦で海軍は解体し、軍事産業で栄えていた市は新たな地域産業を必要とした。そこで、西海国立公園指定による観光振興を目指し、1951 年に中田正輔市長を会長とする西海国立公園期成会が設立した。学術報告書の作成のため、同年に西海国立公園候補地学術調査委員会が設立された。1953 年に西海国立公園候補地の「自然公園計画調査」が実施された¹⁰⁾。観光施設整備は、1952 年に九十九島遊覧船が就航し、翌年に現在の鹿子前集団施設地区に市営水族館が開館するなど観光施設の整備が進んだ。

この時期は西海国立公園の指定を目指す取り組みが行われているため、この時期を国立公園指定期とした。

II 期：公園施設整備期（1956 年～1991 年）

国立公園指定後は、九十九島の景観を楽しむための展望台の整備（1959 年石岳展望台、1965 年弓張岳展望台、1983 年展海峰展望台）や鹿子前集団施設地区を中心とする園地整備および関連する道路整備が実施され、1983 年佐世保海洋リゾート構想や 1989 年パールシーリゾート構想が策定された。

この時期は観光施設の整備が中心として実施されているため、公園施設整備期とした。

III 期：資源情報整備期（1992 年～2003 年）

1992 年にふるさと創成事業の一環として、市民文化の構築とその担い手となる人材を育てることを目的に「させぼ塾」が設立された¹¹⁾。させぼ塾はふるさと創成基金をもとにした補助金を財源とし、「こだわり塾」という佐世保の文化を培うことを目的とした市民活動団体に、年間 50 万円を限度に助成金を交付するものであった¹²⁾。させぼ塾の当初の成果として、1993 年の佐世保の自然・人・文化をテーマとする「文化誌西海人」¹³⁾と海と共生する佐世保をテーマとする「99DICTIONARY（九十九島集め）」¹⁴⁾が発行された。1996 年に市の 571 種の動植物を生息域の特徴と写真で紹介した「させぼ自然ガイドブック」が発行された¹⁵⁾。編集は、こだわり塾の一つ「佐世保自然探検隊」である。隊員の有

志により、市の代表的な市民自然保護団体である「ふるさと自然の会（以下、自然の会と記す）」が設立された。表-2 に自然の会の概要を示す。自然の会は、1997 年より市レッドリストを整備する調査を開始した。

市は 1999 年を「九十九島の年」とし、九十九島の PR 活動を実施した¹⁶⁾が、九十九島の島数といった基礎的な情報が乏しいことが判明した¹⁷⁾。そこで、1999 年 11 月に市民と協働で行う九

表-1 九十九島地域の観光資源に係る時代区分年表

西暦	元号	出来事	施設	情報	ルール	ガイド	区分	
1945	S20	終戦により佐世保鎮守府解体					I 期：国立公園指定期	
1951	S26	西海国立公園指定期成会結成						
1952	S27	西海国立公園候補地学術調査委員会設立						
1952	S27	九十九島遊覧船就航	○					
1953	S28	市営水族館が鹿子前開館	○					
1953	S28	西海国立公園候補地学術調査報告書完成		○			II 期：公園施設整備期	
1953	S28	西海国立公園候補地自然公園計画調査	○					
1955	S30	西海国立公園指定				○		
1959	S34	石岳展望台完成	○					
1961	S36	石岳から鹿子前までの観光道路完成	○					
1963	S38	国民宿舎「九十九島荘」開業	○					
1965	S40	弓張岳展望台完成	○					
1975	S50	鹿子前新道開通	○					
1977	S52	ダイビング事業者 W 営業開始				○		
1979	S54	鹿子前観光ターミナル落成	○					
1980	S55	鹿子前トンネル開通	○					
1983	S58	(市) 佐世保海洋リゾート構想 展海峰展望台完成	○					
1989	H 元	(市) パールシーリゾート構想 シーカヤック事業者 F 営業開始	○			○		
1990	H2	させぼパール・シー株式会社設立	○					
1992	H4	ふるさと創成事業により「させぼ塾」設立		○				III 期：資源情報整備期
1993	H5	(させぼ) 文化誌西海人発行 (させぼ) 99DICTIONARY（九十九島集め）発行		○				
1994	H6	西海パールシーセンター（博物館展示施設）開設 シーカヤック事業者 U 営業開始	○			○		
1996	H8	(させぼ) させぼ自然ガイドブック発行 ふるさと自然の会設立		○				
1997	H9	(市) 環境基本計画策定 (自然の会) 市レッドリスト作成のための調査開始		○				
1998	H10	(市) エコツアー事業（無人島上陸）開始 (市) 「九十九島の年」の PR イベント開催		○		○		
1999	H11	(市) ヨットセーリング体験開始 (市) 九十九島の教調調査研究会発足 (市) 西海パールシーリゾート再活性化基本計画		○		○		
2000	H12	(市) 九十九島基礎調査事業 (市) 西海国立公園南九十九島地域自然体験型利用推進基本構想		○				
2001	H13	(市) 九十九島の数は 208 と発表 九十九島の会発足		○				
2002	H14	(市) 九十九島調査室開室 (調査室) 九十九島調査業務開始（市から受託） 九十九島ボランティアガイド発足 市レッドデータブック発行（旧市域）		○		○		
2003	H15	(鳥の会) 松くい虫被害調査開始		○		○		
2004	H16	ET 推進事業モデル地区指定 (モデル) 既存人材の調査 (モデル) 既存エコツアープログラム調査 (モデル) 佐世保 ET 推進検討会設置 (調査室) 九十九島 208 の島名調査 (鳥の会) 子ども ET in 九十九島開始		○		○	IV 期：ET ルール検討期	
2005	H17	吉井町・世知原町合併 (市) 小遊船事業開始 (モデル) させぼ ET 基本方針策定 (モデル) 佐世保 ET 推進協議会設置 (市) 市環境基本条例制定		○		○		
2006	H18	小佐々町・宇久町合併 (モデル事業) させぼ ET 基本計画策定		○		○		
2008	H20	(市) 佐世保 ET 推進委員会設置 (委員会) させぼ ET ガイドライン策定		○		○		
2009	H21	九十九島ビジターセンター開館 九十九島 ET 利用ルール策定検討業務実施		○		○		
注1)		施設：観光施設の整備に関する出来事、情報：観光情報の整備や発掘に関する出来事、ルール：法令やガイドラインに関わる出来事、ガイド：ガイド従事者が関与する出来事						
注2)		(させぼ)：させぼ塾（自然の会）：ふるさと自然の会、(市)：させぼパール・シー株式会社、(市)：佐世保市、(調査室)：九十九島調査室、(鳥の会)：九十九島の会、(モデル)：ET 推進モデル事業、(委員会)：佐世保 ET 推進委員会の実施主体を示す						

表-2 自然保護団体の特徴

成立年	ふるさと自然の会	九十九島の会
1996 年		2001 年
設立経緯	1992 年ふるさと創成事業の一部として行われた「させぼ塾」の自然調査家の有志により設立された	1999 年に実施された市九十九島の教調調査研究会の有志により設立された
主な活動	・ 希少種の保全活動（シホバツグ・ミマカサ） ・ 市レッドリスト調査事業の受託 ・ 会員向け自然観察会等イベントの開催 （日本自然保護協会自然観察指導員認定者ガイド役を務める。12 名程在籍）	・ 九十九島ボランティアガイド（会員中 23 人が参加） ・ 子ども ET in 九十九島の開催（2004 年以降、年 1 回実施） ・ 九十九島松くい虫被害調査（2003 年～） ・ パールシーリゾートおよび島のゴミ清掃
会員数	約 200 家族（2011 年現在）	43 名（2011 年現在）

十九島の島数を調査するための組織「九十九島の数調査研究会」を発足した。調査結果は、2001年4月1日に「九十九島の数は208」と発表された¹⁸⁾。

2000年度の「九十九島キャンペーン2000」の一部として「九十九島基礎調査事業」が実施された。1999年から開始された「島の数調査」に加え、「陸上生物実態調査」「水生生物実態調査」「夕日のポイント調査」も実施された¹⁷⁾。

2001年4月に九十九島の数調査研究会のメンバーを中心に、さらに九十九島のことを学習し、208の島々の名前や植物相を記録することを目的に「九十九島の会（以下、島の会と記す。）」が設立された¹⁷⁾。表-2に島の会の概要を示す。

2002年にさせばパール・シー(株)に「九十九島調査室（以下、調査室と記す。）」が設けられ、専門スタッフを配置し、開設当初より市から九十九島調査業務を受託し、九十九島に生息する動植物の調査や水質調査を実施した¹⁸⁾ ¹⁹⁾。また、2002年は市環境保全課から市レッドデータブックが公開された。

観光施設整備では、博物館施設の西海パールシーセンターが1994年に開設され、それに伴いシーカヤック事業者Uが営業を開始する。2001年の西海国立公園南九十九島地域自然体験型利用推進基本構想では島を活用した観光の推進が図られるようになった。専業のガイド事業者はこの時期までに営業を開始した。

この時期は、市民参加による資源情報の整備に特徴があるため、資源情報整備期とした。

IV期：ETルール検討期（2004年以降）

2004年「マストツーリズムのエコ化」を目指す地域としてET推進事業モデル地区に選定された。2004年にET推進検討会、2005年ET推進協議会を発足させ、2006年にさせばET基本計画を策定した。表-3にET推進事業で実施された資源調査内容を示す。既存の資源整理および市町村合併地域の調査が主で、九十九島に関する新たな調査は実施されていない²⁰⁾ ²¹⁾ ²²⁾。推進事業の終了後の2008年に、ET推進委員会を立ち上げ、させばETガイドラインを策定した。2009年に島での観光活動の利用状況を調査し、利用制限を検討するためのET利用ルール策定検討事業が実施された。

2004年以降は、ET利用のためのガイドラインやルールなどが整備された時期であるため、ETルール検討期とした。

(2) 九十九島の資源調査とガイド従事者の関係把握

表-4に九十九島における資源調査の概要を示す。

I期に実施された調査には、「西海国立公園候補地学術調査(1951)」と「西海国立公園候補地自然公園計画調査(1953)」がある。前者の調査は、東京大学理学部を中核とする調査団によって行われた²³⁾。調査団は、五島地域と平戸地域の天然記念物に指定される地理学上貴重な資源を発見した。後者の調査は、田村剛と東京大学造園学教室の教員により実施され²⁴⁾、「南九十九島は、我が国で最も密集した小島群としての特徴があるが、同一形式の松島よりも海水の清澄な点で景観上はるかに優れており、また長く軍用地として保護されていたため、天然植生をしめしているので常緑広葉樹が陸前松島とは相異した群島景観となっている」²⁵⁾と評価し、九十九島の風景は観光資源としての価値を高めることになる。I期は専門家による調査で、九十九島の資源の基礎を築いたと言える。

II期には資源調査報告は見られなかった。

III期では、1997年から自然の会が市レッドリストのための調査を開始した。市環境保全課は2001年に学識経験者を含む市レッドリスト作成委員会を組織し、2002年旧市域のレッドデータブックを発行した²⁶⁾。自然の会HPでは20名の作成委員のうち15名が会員であるとしており²⁷⁾、市の動植物調査に自然の会が大き

く貢献していることが分かる。その後も自然の会は、合併地域のレッドリスト整備のための調査を市より受託している²⁸⁾ ²⁹⁾。自然観察会などのガイドを伴う活動は、会員が対象で、ガイド従事者は日本自然保護協会の自然観察指導員認定者の12名程度である。

1999年からの九十九島の数調査研究会は、最終的に43人の会員が集まり、月1回程度の研究会を開催し、島の定義を決め、現地調査を行った上で、島数を発表した¹⁷⁾。2000年の九十九島基礎調査事業では、熊本県菊鹿町で1株自生し、国の特別天然記念物に指定されているマメ科の植物トビカズラを2000年9月に九十九島トコイ島で発見した³⁰⁾。発見者は、九十九島の数調査研究会のメンバーと自然の会副会長であった。

2002年から調査室では調査業務が実施され、アマモ生育調査、海岸線延長調査、ハマボウ調査、市の花であるカノコユリ調査などを実施し、その調査成果一部は「九十九島自然ガイド」という媒体として市民に配布された³¹⁾。調査室は、九十九島ボランティアガイド(以下、九十九島VGと記す。)の事務局を担っている。九十九島VGは、遊覧船や水族館でのガイドを実施している。2002年の発足時は島の会の有志会員により組織されていたが、2005年より公募を行っている。遊覧船のガイドは、乗船時間50分間に九十九島の自然や環境、コース内の島々についての案内を

表-3 ET推進事業における資源調査

年度	資源調査内容
2004	市および合併予定地域における資源に関するアンケートおよびヒアリング調査・整理・集約 ・佐世保および周辺地域における既存のエコツアー等プログラムに関するアンケートおよびヒアリング調査・整理・集約 ・佐世保における既存の人材に関するアンケートおよびヒアリング調査・整理・集約
2005	資源の補充調査および評価分析(合併地域の資源と人材に関するアンケート調査) ・世知原地域、吉井地域、小佐々地域、宇久地域
2006	資源調査研究業務の実施 ・宇久地域：自然環境に関する実地調査 ・世知原地域：石橋に関する実地調査 ・中心市街地域：三ヶ町、四ヶ町アーケードに関する実地調査 ・小佐々地域：大志観公園の実地調査

表-4 九十九島に関わる資源調査とその概要(2009年まで)

期	西暦	調査名	主体		対象		目的			期間 年数/回	備考
			専	市	自	他	自	変	保		
I期	1951	西海国立公園候補地学術調査	○		○	○				1	東大理学部を中核とする調査団
	1953	西海国立公園候補地自然公園計画調査	○							1	田村剛および東大造園学教室教員
III期	1997	絶滅危惧種調査	○	○	○	○				15	ふるさと自然の会 期間：1997-2011 現在
	2000	九十九島の数調査			○	○				2	九十九島の数調査研究会
	2001	九十九島基礎調査 (水生生物調査、陸上生物調査、夕日のポイント調査)		○	○	○				1	九十九島の数調査研究会 ふるさと自然の会
	2002	アマモ生育調査		○	○	○				2	期間：2002-2003
	2002	自然海岸線延長調査		○	○	○				2	
	2003	松くい虫被害調査		○	△	○		○		7	九十九島の会 期間：2003-2009
IV期		ハマボウ調査		○	○	○				7	期間：2003-2009
		カノコユリ生育調査		○	○	○				1	(国)VN, (県)VN, (市)EN
	2004	島名調査	○	○	○	○				1	長崎県立大学との合同調査
		ハマザシ調査		○	○	○				2	(国)NT, (県)NT, (市)NT 期間：2004, 2007
		鳥類調査		○	○	○				5	期間：2004-2008
		蝶類調査		○	○	○				2	パールのリゾート周辺 期間：2004-2005
		沿岸性ウミアメンボ調査	○	○	○	○				4	盛岡大学との合同調査、 (国)U, (県)EN, (市)NT 期間：2004, 2007-2009
		ETに関する素材調査				○				1	ET推進モデル事業
		ETに関する人材調査				○				1	ET推進モデル事業
		エコツアープログラム調査				○				1	ET推進モデル事業
IV期	2005	海藻調査		○	○	○				5	期間：2005-2009
		ベッコウトンボ調査		○	○	○				1	(国)CR+(EN), (県)CR, (市)CR
		ムラサキツバメ越冬調査		○	○		○			3	期間：2005-2006, 2008
	2006	外来種マツコ定調査		○	○	○				1	金重島
IV期	2006	シロワオミ上産卵確認調査		○	○	○				1	(国)U, (県)NT, (市)U
		水質調査	△	○	○					4	分析は調査専門会社 期間：2006-2009
	2007	イノシシ被害調査		○	○					1	
		ハマジンチョウ調査		○	○	○				1	(国)VN, (県)NT, (市)EN
IV期		砂浜の甲虫類採取調査	○	○	○					2	高校との合同 期間：2008-2009
		伝馬船造船作業の記録調査		○	○					1	
	2008	祭事調査		○	○					1	
2009	九十九島利用に関する調査	○							1	ET利用ルール策定検討 業務	

主体は調査主体の略で、専：専門家、市：市民、調：九十九島調査室を意味し、○は主体的な立場△は補助的な立場を示す。対象は調査対象の略で、自：自然資源、人：人文資源を意味する。目的は調査目的の略で、目：目標達成、変：環境変化の把握、絶：絶滅危惧種の把握、被：被害状況の把握を意味する。期間：調査期間の略。CR：絶滅危惧I A種、EN：絶滅危惧I B種、VN：絶滅危惧II種、NT：準絶滅危惧種 九十九島調査室に関する情報は、2005年から2009年の「九十九島調査事業報告書」を参照した。

する。ガイド従事者として登録するには、調査室（現在は九十九島ビジターセンター）が行う九十九島の自然やガイドマナーを学ぶための初期研修を受講する必要がある³²⁾。ガイド従事者の活動実績は、年数回から月30回以上とバラツキがある。ガイドに従事し、毎日のように九十九島遊覧をしているうち松枯れに気が付き、2003年から島の会で松くい虫被害木調査を実施することになった³³⁾。ガイド回数が最多のM氏は、2003年からガイドを始め、これまでに3000回以上乗船している³⁴⁾。毎日のように観察していると、見慣れた島や岩が別の姿に見えてきて、「ライオン岩」や「ゴジラ岩」といった奇岩を発見した。2005年から奇岩の説明を案内に取入れるようになり、自作の奇岩マップを作成し、新たな観光資源となっている³⁵⁾。また、ガイド従事者は日々の気づきや変化を日誌として記録し、九十九島調査員や水族館職員およびメンバー同士の情報共有を実施し、ガイド技術の向上に役立てている³⁶⁾ ³⁷⁾。

IV期には、主に調査室による調査が実施されている。多くは自然環境に関わる資源調査であるが、島名調査や伝馬船調査、祭事調査などの人文資源調査もみられるようになった。また、ET推進モデル事業では、市により人材や素材、プログラムに関する調査が実施された。表-5は、ETに関する人材調査結果のうち、資源に関わる人材の所属である。61名の人材が発掘されたが、専門の観光関連事業者はさせばパール・シー(株)、シーカヤックガイド事業者、瀬渡し船事業者、ダイビングガイド事業者、ヨットガイド事業者の合計19名であり、島の会や自然の会に所属するボランティアの人材が35名と多数を占める。

これまで九十九島の資源に関する情報が乏しいことから、資源の目録作成を目的とする調査が多く実施されている。少数だが、松くい虫被害木調査や水質調査などの継続調査も実施されている。今後、自然の会の絶滅危惧種調査は、合併地域の目録づくりが終わると、再度旧市街地に戻り、経年変化を確認する作業に移る²⁸⁾。

4. 考察

九十九島地域のETの資源は、国立公園指定の際の学術的な調査を基礎として、その上に市民参加による資源調査を経て、地域の資源を発展させてきたと考えられる。

市民参加による資源調査は、九十九島に対する愛着や関心を産み、島の会を組織させた。そしてその中から、九十九島VGのガイド従事者を輩出するようになった。また、ガイド従事者は毎日のように九十九島を案内することから、松くい虫被害木調査の実施し、奇岩という新たな資源を生み出した。市による松くい虫被害対策は1962年から実施されており、当初空中散布による対策であったが、水産業および国立公園区域の自然環境への影響を考慮し、1989年以降は予防剤の樹幹注入を実施している³⁸⁾。九十九島の会による松くい虫被害木調査は、市民オンブズマンとしての役割があると考えられる。

5. まとめ

西海国立公園のように身近な自然環境を特徴とする国立公園では、ガイド従事者は資源の発展者であると同時に、その資源の保護の担い手であることが明らかとなった。保護の担い手としての役割は、武ら³⁹⁾が九十九島のシーカヤックガイド従事者および

ガイド補助者にも自然環境モニタリングの能力を示唆したことから明らかである。

2009年のET利用ルール作成検討事業では、希少種の盗掘やマリッジユーザー利用者のマナー問題などが指摘された⁴⁰⁾。現状では、利用規制などの緊急な対策が必要とされる状況にないが、今後は九十九島でETを発展させるために、調査室を中心に、ボランティアおよび専門ガイド従事者からの自然環境情報を効果的に収集し、フィードバックして、資源の価値を高めたり、保全対策に応用したりできる仕組みづくりが必要であると考えられる。

謝辞：佐保市企業立地・観光振興局から貴重な資料の提供をいただいた。また、ヒアリング調査では、多くの方々からご協力をいただいた。ここに感謝申し上げます。

補注及び引用文献

- 注1：新聞記事検索データベースは、毎日Newsパック（毎日新聞）およびヨミダス歴史館（読売新聞）を利用した。
- 1) 海津ゆりえ (2011)：日本型エコツーリズムの展開と新たな担い手、エコツーリズムを学ぶ人のために、世界思想社、212-221
 - 2) 武正憲 (2010)：自然観光資源管理におけるエコツアガイドの能力と役割、環境情報科学発表論文集 (24)、327-332
 - 3) 国内では屋久島・小笠原・知床などの世界自然遺産地域、国外ではエクアドル・コスタリカなどの事例がある。
 - 4) (財)国立公園協会 (2010)：自然公園のてびき、財団法人国立公園協会、247pp
 - 5) 環境省 (2007) 国立・国定公園の指定及び管理運営に関する検討会提言付属資料、p5、http://www.env.go.jp/nature/koen_kento/070227_1b.pdf、更新 2007.2.27、2011.9.21 参照
 - 6) 佐保市企画部 政策経営課：佐保のあゆみ、佐保市HP、<http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/www/contents/1087901526505/index.html>、更新日不明、2011.9.20 参照
 - 7) 佐保市 (2004)：西海国立公園 50 年の主なできごと、西海国立公園 50 周年基本構想、p3
 - 8) 佐保市 (2008)：佐保のあゆみと主な取り組み、佐保市文化振興基本計画、7-9
 - 9) 河田公明 (2000)：西海国立公園誕生、西海国立公園誕生秘話、西海国立公園協会、8-11
 - 10) 前野淳一郎 (2000)：西海国立公園候補地公園計画調査の思い出、西海国立公園秘話、西海国立公園協会、3-5
 - 11) 佐保市 (2008)：文化振興の現状と課題、佐保市文化振興基本計画、4-5
 - 12) 高橋信幸 (2008)：初めて取り組む「市民協働によるまちづくり」の現状と課題、長崎国際大学論叢 (8)、193-204
 - 13) させば塾 (1993)：文化誌西海人、隆文社、152pp
 - 14) させば塾 (1993)：99DICTIONARY (九十九島事集め)、星雲社、98pp
 - 15) させば自然ガイドブック編集委員会 (1996)：させば自然ガイドブック、させば塾、200pp
 - 16) 蓮田尚 (1999)：西海パールシーリゾートー西海国立公園九十九島の利用拠点一、ながさき経済 (1999.9)、1-4
 - 17) 蓮田尚 (2001)：西海国立公園「九十九島」、ながさき経済 (2001.8)、1-4
 - 18) 佐保市企業立地・観光物産振興局 観光・九十九島グループ (2010)：西海国立公園「九十九島」、ながさき経済 (2010.3)、25-30
 - 19) 2011年3月7日の佐保市企業立地・観光振興局へのヒアリング調査
 - 20) させばパール・シー (2004)：平成16年度佐保地区エコツーリズム推進モデル事業業務報告書、97pp
 - 21) させばパール・シー (2005)：平成17年度佐保地区エコツーリズム推進モデル事業業務報告書、250pp
 - 22) させばパール・シー (2006)：平成17年度佐保地区エコツーリズム推進モデル事業業務報告書、225pp
 - 23) 山階房正 (2000)：学術調査委員会秘話、西海国立公園誕生秘話、1-2
 - 24) 蓮田知則 (2000)：海・人の自然公園を目指して、西海国立公園秘話、西海国立公園協会、20-30
 - 25) 田村剛 (1954)：西海国立公園、国立公園 (57-58)、16-17
 - 26) 佐保市環境部環境保全課 (2002)：佐保市レッドデータブック2002年ー佐保の希少な野生動物一普及版、佐保市環境部環境保全課、124pp
 - 27) ふるさと自然の会HP：「佐保市からレッドリストが公表されました」、<http://www5d.biglobe.ne.jp/~furusato/saseboRDRisuto.htm>、更新日不明、2011.9.21 参照
 - 28) 2011年3月8日の佐保市環境部環境保全課へのヒアリング調査による
 - 29) 2011年3月8日のふるさと自然の会へのヒアリング調査による
 - 30) 2001年5月11日、毎日新聞（地方版/福岡）、「国の天然記念物トビヅラ、九十九島で大繁殖」
 - 31) 2003年4月7日、読売新聞（西部朝刊/長崎）、「九十九島の見所照会、佐保市がガイド発行」
 - 32) 2011年3月8日の九十九島ビジターセンターへのヒアリング調査による。ボランティアガイド発足時から実施され、2011年度は全9回の初期研修が用意されている。
 - 33) 2011年3月9日の九十九島の会へのヒアリング調査による
 - 34) 2007年10月21日、読売新聞（西部朝刊/長崎）「奇岩いっぱい九十九島、奇想で観光活性化」
 - 35) 西村千尋 (2011)：海半型エコツーリズムー九十九島（長崎県）、地域を守っていかすエコツーリズム、講談社、174-183
 - 36) 2011年3月8日の九十九島ビジターセンターへのヒアリング調査による
 - 37) 西海パールシーリゾート、九十九島遊覧船 乗船ボランティアガイド、<http://www.pearlsea.jp/volunteer/>、更新日不明、2011.9.26 参照
 - 38) 2011年3月8日の佐保市農林商工部農林整備課へのヒアリング調査による
 - 39) 武正憲ら (2010) 南九十九島エコツアーにおけるガイド補助者の業務と環境認識に関する研究、ランドスケープ研究 73 (5)、489-492
 - 40) 財団法人ながさき地域政策研究所 (2009)：平成21年度九十九島エコツーリズム利用ルール策定検討業務報告書、74pp

表-5 既存の資源に係る人材

所属	人数	備考
九十九島の会	24名	ボランティアガイド
ふるさと自然の会	11名	うち1名九十九島の会所属
させばパール・シー (株)	9名	うち1名退職者
シーカヤックガイド事業者	4名	事業者D2名、事業者U2名
瀬渡し船事業者	3名	事業者毎に1名所属
ダイビングガイド事業者	2名	事業者W1名、事業者D1名
ヨットガイド事業者	1名	
その他の所属	8名	大学教員等各1名
合計	61名	